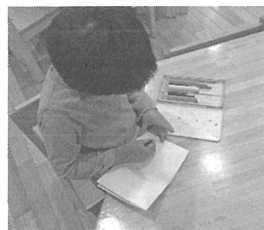


世界にたったひとつの絵本

栗原玲子

(保育士)



いつから絵本が好きなのだろう……。思い返してみると、子どもの頃サンタクロースが毎年欠かさず枕元に絵本を贈ってくれていたからだと思います。絵本だということはわかっていても、姉と二人でわくわくしながら包みを開けていたことを思い出します。子どもの頃から絵本が大好きだったので大きくなったら難しい本もたくさん読む読書家? と思いきや、今でも絵本ばかりに夢中な私です。好きだった絵本集めは、この仕事を始めてからは自分が好きな絵本を選ぶのでなく、「子どもたちはこの絵本にどんな反応をするのだら

う……。」とあれやこれや想像しながら日々絵本選びをするようになりました。読み聞かせをしているときの子どもたちの真剣な瞳、キラキラと輝く瞳。読み聞かせをしているひとときは、私にとって、とても幸せな時間です。

「読む」から「作る」へ

進級してからはクラスがなかなか落ち着かず、子どもたちが何に興味を持つのだろうか……と試行錯誤の日々。そのような中、一番に子どもたちが興味を持ったもの、それが絵本・紙芝居でした。年中・年長組の混合であ

栗原玲子 (くりはら れいこ)

まちの保育園六本木 (東京都港区) 保育士。

るクラスは大半が男児ということもあり、一番初めに子どもたちを夢中にさせた物語は『西遊記』の紙芝居。すぐに「ごっこ遊びが始まり、「孫悟空」「猪八戒」「沙悟浄」等の役になりきって遊んだり、「ひょうたん」や「如意棒」等の小道具を作ったり……とつぎつぎに遊びが展開していきました。



たくさんさんの絵本に親しみ過ごす日々の中、「読む」から「作る」へと変わったことはとても自然な流れでした。いつの間にか、遊びの中、自分で物語をつくる絵本作りが始まったのです。お気に入り絵本を見ながら画用紙に模写が始まり、そこからつぎつぎとオリジナルの物語ができていきました。

『桃太郎』をアレン

ジしたR君の「パンからうまれたパン太郎」。パンが川から「こんがりこ〜こんがりこ〜」と流れてくるなんとも言えないかわいらしさの物語。大人にはない発想、あつという間にクラス中で大流行！ 他の子どもたちも、続編を考えたり、絵が苦手な子にはお絵描き上手の子が挿絵を描いてあげたりと、友達と協力しながら作っていき、つぎつぎと新しい「世界にたったひとつの絵本」が出来上がっていました。文章は子ども言葉を一語一句変えずにそのまま文字にしていくので、たどたどしい言葉のかわいらしい文になります。子どもらしい言葉の中にも突然「そんな言葉も知っているの!？」と驚かされることもあり、一緒に作っていて本当に楽しい時間でした。

絵本を作るようになってからは、自分たちが読む絵本にも、今までになかった関心が生まれていきました。「この絵本は誰が書いている

んだろう」「……」を書いた人と同じ人だ!!」
と、作者を気にするようになったのです。そして、作者名を気にしていくようになったことで今まで以上に表紙に目を向けるようになった子どもたちは、表紙に書いてある題名の「秘密」を探すように……。題名に書かれている字の濁点が「ㇿ」や「☆」になっていたり、物語に関する形になっていたりする絵本を発見するようになりました。

「秘密」を見つける楽しさを知ってからは絵本を読む楽しさも増して、絵本作りもさらに工夫するようになりました。作者からすると、表紙は読み手へ向けた一番大事な一ページ。絵本を自分で作るようになってから、子どもたちも表紙や一ページ一ページに対しての思い入れが変わったようです。

「作者」と「読者」の役割

手作りの絵本や紙芝居がたくさんできた

ので、手作り絵本だけをそろえた【かぜ・だいち組図書館】のコーナーを作りしました。作者も読者も、どきどきわくわく……。作者である子どもたちの反応はというと、自信を持って発表する子どももいれば、読もうとすると恥ずかしがってどこかへ行ってしまう、遠くから皆の反応を伺う子どももいてさまざまでした。反応はそれぞれではありますが、絵本に対しての思い入れが発表するたびにたくさん伝わってくるので、私自身、手作り絵本を皆の前で読み聞かせする際は、子どもたちと同じように特別な気持ちになります。

絵本はクラス全員が作っているわけではありませんが、作らない子どもたちも常に「読者」として支えてくれました。自分では作らないけれど、毎日のように図書館コーナーに



行って絵本を選び、うれしそうに読んでいる姿を見ると、なんともうれしい気持ちになりました。読んでくれる友達がいるので、作者たちもさらに書く意欲が湧いているようです。「作者」と「読者」とても素敵な関係です。

魔法の時間

友達とひとつの絵本を楽しむ時間は、子どもたちにとって魔法の時間。そう感じた出来事もありました。いつものように絵本を読んでいた、みんなで大笑いした瞬間のことです。K君が「Y君、俺たちけんかしてたのに、今一緒に笑ったら仲直りしちゃったね」と言うのと、「そっだな。アハハ」とY君。『ごめんね』の言葉がなくても、楽しいことを一緒に感じて、一緒に笑って仲直り……。なんて素敵なのでしょうか！ いつの間にか仲直りしてしまっていることはよくありますが、言葉に出し

て一緒に共感しあっている子どもたちの姿がなんともほほ笑ましく、素敵だなあと感じた出来事でした。こういう瞬間は日々たくさんあるのかもしれませんが。そうやって、けんかして仲直りして仲間関係を築いているのだと思うと、あらためて子どもたちの持つている力に特別なものを感じました。魔法の時間はきっと常日頃もずっとたくさんあるのでしょう。少しでもその瞬間にかかわれるよう、見逃さないように過ごしていきたいものです。

子どもの頃から大好きだった絵本。いつでも身近にあった絵本は今、子どもたちと一緒に読んで、作って、楽しむものになりました。世界にたったひとつの絵本作りはまだまだ続きそうです。次はどんな物語が誕生するのでしょうか。今日も子どもたちと一緒に絵本の時間を楽しんでいます。